

令和元年11月13日

各報道機関文教担当記者 殿

エジプトのサッカー遺跡で初めてローマ支配期の カタコンベ（集団墓地）を発見！

金沢大学新学術創成研究機構の河合望教授を隊長とする日本エジプト合同・北サッカー調査隊は、エジプトのサッカー遺跡で初めてローマ支配期（1～2世紀）のカタコンベ（集団墓地）（※）を発見しました。

金沢大学を中心とする日本エジプト合同・北サッカー調査隊は、新王国時代（前1550～1069年頃）の高官の岩窟墓を調査する目的で、2017年8月からエジプトのサッカー遺跡北部で発掘を開始しました。サッカーは、古代エジプト王朝時代の中心的都市メンフィスのネクロポリス（古代の墓地）として、第1王朝からローマ支配時代までの3000年以上もの間、数多くのピラミッドや墓が造営されたエジプト有数の墓地遺跡です。本調査隊は、2019年の8月から9月までの調査で、これまでサッカー遺跡では知られていなかったローマ支配期の未盗掘のカタコンベを発見しました。

カタコンベは、日乾レンガ製のヴォールト天井に覆われた長さ約9メートル、幅1.5メートルの下降階段と奥行き約15メートル、幅約2.5メートルの通廊の両側壁に合わせて5つの側室を持つ岩窟墓から構成されています。これまでローマ時代のカタコンベについては、地中海沿岸のギリシア・ローマ時代の首都であるアレクサンドリアで知られていましたが、ナイル川流域では初めての発見です。岩窟墓内部には数十体のミイラを含めた遺体がほぼ手付かずの状態で埋葬されていました。さらに、エジプトの神々とギリシアの神々が描かれたギリシア文字が掘られた石碑や、エジプトのイシス女神とギリシアのアフロディーテ女神が習合した女神の像などが出土しました。

本発見により古代エジプトの文化と古代ギリシア・ローマの文化の融合に関する貴重な資料を得ることができ、ローマ時代のエジプトについての今後の研究の進展が期待されます。

なお、本調査研究は、早稲田大学、東日本国際大学、国立科学博物館、カイロ・アメリカン大学、エジプト考古省の研究者と共同で実施されたものです。

本研究成果は、2019年11月5日にエジプト政府考古省から公式に発表されました。

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）「エジプト、北サッカラ遺跡における新王国時代墓地の総合的調査研究」（研究代表者 河合望）、金沢大学超然プロジェクト「古代文明の学際研究の世界的拠点形成」（プロジェクト代表者 河合望）の支援を受けて実施されました。

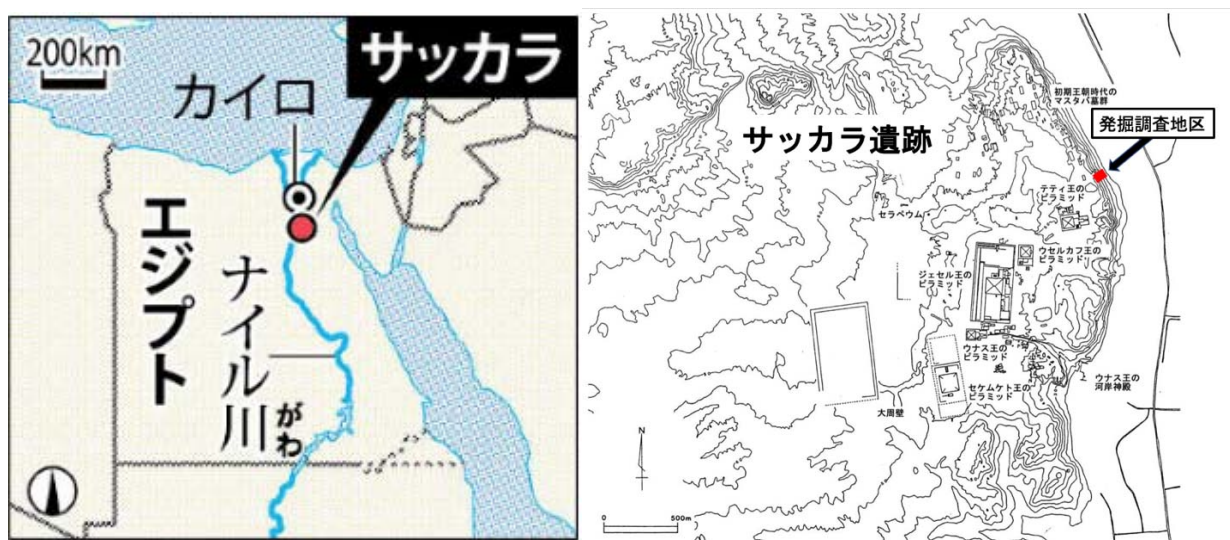


図1. 発掘現場俯瞰画像（中央の階段のある構造物がカタコンベの入口）

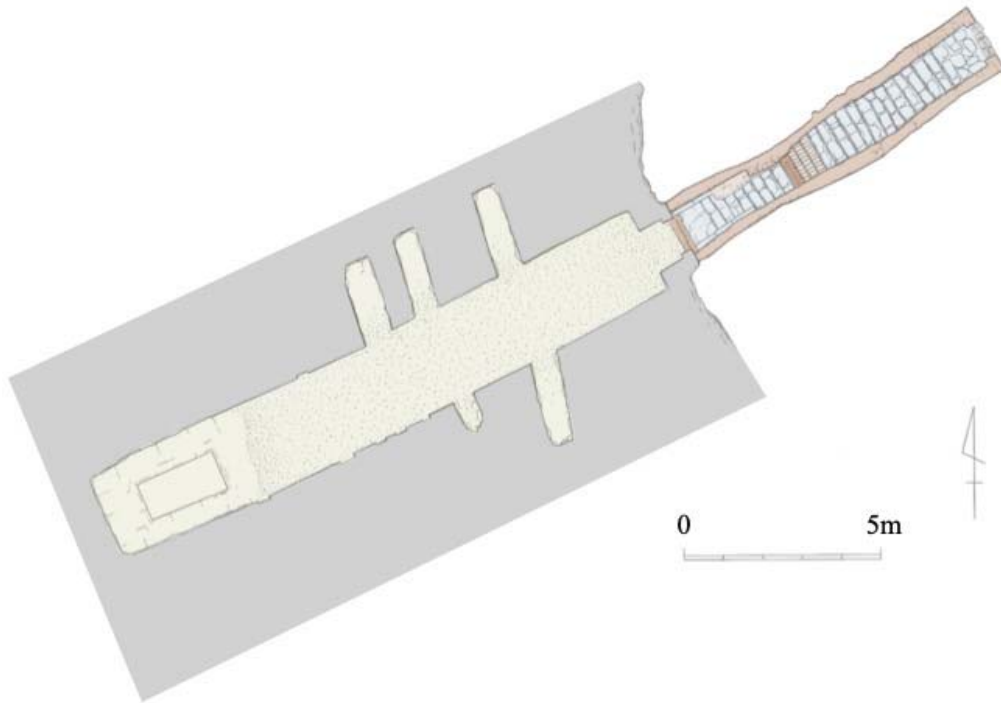


図2. カタコンベ平面図



図3. カタコンベ断面図



図4. サッカラ遺跡の発掘現場（北から）



図5. サッカラ遺跡の発掘現場（正面）

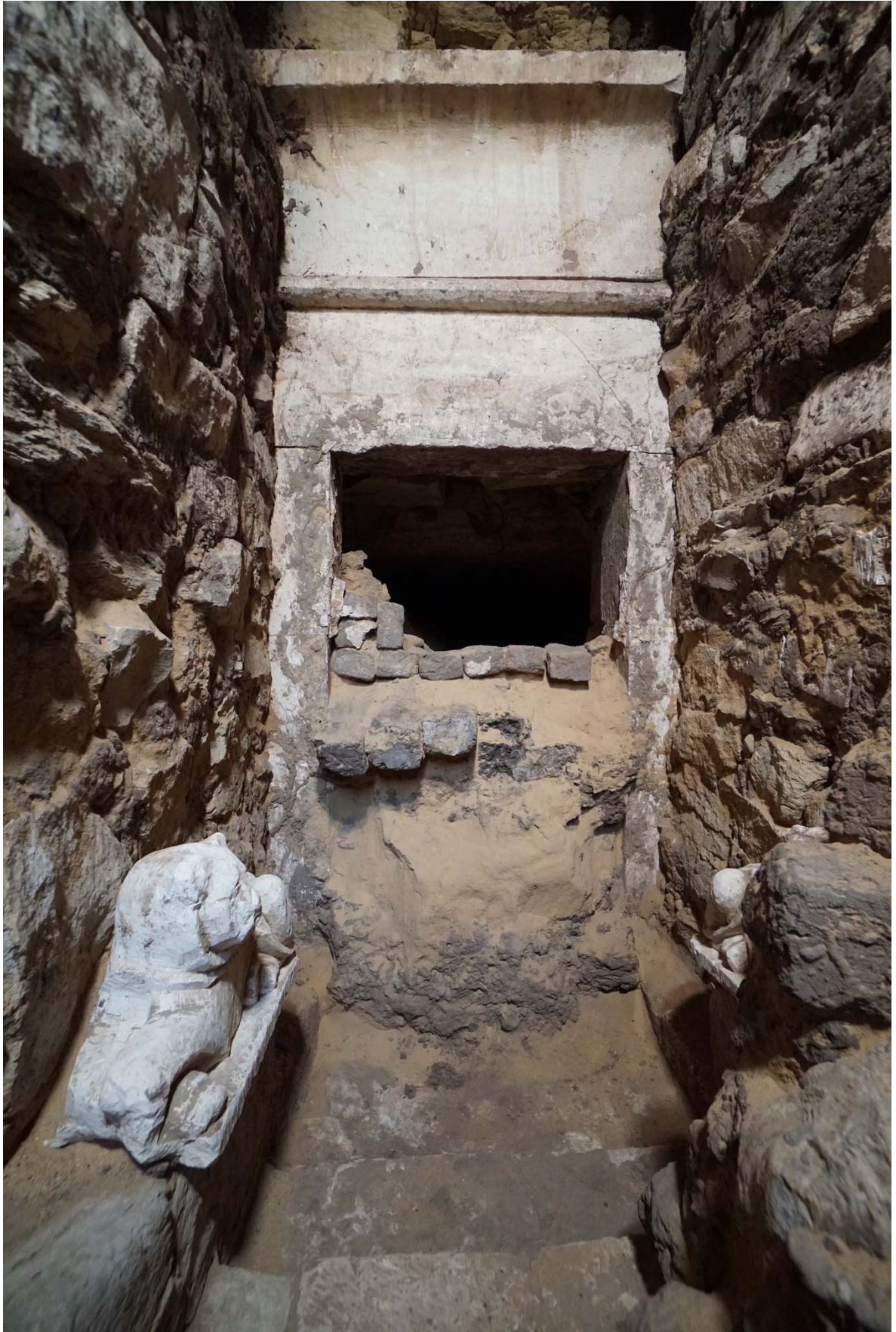


図6. カタコンベの入口



図7. カタコンベの入口前から出土したライオン像
上方から見た画像（上）と個々のライオンを正面から撮影した画像（下）



図 8. テラコッタ製イシス・アフロディーテ女神像



図 9. 神々が表されたステラ（石碑）



図 10. デメテル女神のステラ（石碑）



図 11. テラコッタ製イシス・アフロディーテ女神像

【用語解説】

※ カタコンベ（集団墓地）

イタリア語で地下の墓所を意味する。死者を埋葬した洞窟，岩窟全般を指す。

【本件に関するお問い合わせ先】

■ 研究内容に関すること

金沢大学新学術創成研究機構 教授

河合 望（かわい のぞむ）

TEL：076-264-5859

E-mail：nozomu.kawai@staff.kanazawa-u.ac.jp

■ 広報担当

金沢大学総務部広報室広報係

嘉信 由紀（かしん ゆき）

TEL：076-264-5024

E-mail：koho@adm.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学研究・社会共創推進部研究推進課

四十万 麻由美（しじま まゆみ）

TEL：076-264-6186

E-mail：rinfi@adm.kanazawa-u.ac.jp